

吉川教授を迎え「田んぼダム報告会」開催!!

現地で意見交換



田んぼダム報告会



田んぼダムの取組が拡大している大仙市で、十月二十一日に新潟大学農学部で吉川夏樹教授を迎え「田んぼダム報告会」を開催しました。

(1) 現場での意見交換
洪水被害が頻発している福辺内川流域で、市の担当者から流域の被害状況や被害軽減に係る市独自の取組について説明がありました。

また、多面的機能支払交付金を活用して田んぼダムに取り組んでいる実際の現場で、活動組織から、構造や効果、日頃から感じている疑問や不安などについて、吉川教授と意見交換を行いました。

田んぼダム通信

発行所
秋田県農林水産部
農地整備課
水利整備・防災班
TEL：018-860-1830
農地整備班
TEL：018-860-1824
農山村振興課
地域環境保全班
TEL：018-860-1853

(2) 田んぼダム報告会
同報告会では、県、大仙市、美郷町、関係土地改良区、多面的機能支払交付金の活動組織が一堂に会し、取組状況や課題等について報告や意見交換を行いました。主な内容は下表のとおりです。

なお、吉川教授より報告会の総括として次の意見を頂きました。

田んぼダムの取組を持続的に行っていくためには、下流域の住民が上流域で取り組んでいる農家を支援するなど、地域一体の仕組み作りが理想である。

今回の報告会では、実際に田んぼダムに取り組む方々から様々な御意見を頂きました。県では、こうした意見を踏まえ、多くの方々が田んぼダムに興味を持てるよう、またその取組を拡大出来るよう、効果や事例紹介など、様々な情報の発信を今後行う予定です。

田んぼダム報告会 意見交換まとめ

取組組織

- 調整板は組織自らが用意しているが、材質によっては長期間使用できない。
- 今年大きな雨がなかったため、田んぼダムの効果が実感できなかった。
- ゴミ詰まりによる排水不良が発生しないか不安である。
- 田んぼダムの貯留によって畦溝畔が崩れるなどの影響がないか不安である。

吉川教授

- 他県では調整板の配布を市町村が行い、劣化・破損に対して再交付を行っている例もある。また、現在、長く使用できる調整板を開発中である。
- 田んぼダムが効果を発揮する雨は50 mm/h以上と想定している。(調整板φ50 mm) 長年実施している地域では、営農に大きな支障や変化がなく、農家が調整板を設置していることを忘れるほど現場に馴染んでいるといった事例もある。
- ゴミ詰まりについて、一体型では発生する可能性が高いが、分離型では可能性が低い。
- 畦溝畔が崩れる等の不安について、適正な管理を行っていれば影響は殆ど無い。